「薬剤師の訪問業務の現状に関するアンケート調査」

（一社）佐賀県薬剤師会　在宅医療委員会

菊竹 広隆

【目的】

訪問業務の現状の課題や問題点を把握し、在宅医療委員会での事業企画を作成にするため、

また、佐賀県薬剤師会で運用している「在宅訪問薬局検索システム」の更新資料として訪問業務の現状に関するアンケート調査を行った。

【方法】

アンケートを佐賀県薬剤師会の会員薬局にＦネットで一斉送信し、未提出薬局には再度個別に送信、各地区の在宅医療委員より声掛けも行った。

【結果】

・県内の499薬局すべてに回答をいただき100％の回収率となった。

・44％（221/492）の薬局が訪問業務を行っており、請求実績は3026件/月であった。

・1人薬剤師の薬局では、1薬局あたり平均2件/月の請求実績があった。

・23％（95/421）の薬局が訪問をして請求をしておらず、未請求実績は1606件/月であった。

・薬局からの提案と多職種からの提案による居宅療養管理指導のきっかけが、前年よりそれぞれ3割増加している。

・4％（20/496）の薬局にクリーンルーム・クリーンベンチの設備がある。

【考察】

在宅訪問業務に関わる薬局の現状を見るにあたり、信頼できる結果を得ることができた。

在宅訪問業務を行っている薬局は年々増加し、居宅療養管理指導の実績も増加傾向にある。

また、1人薬剤師の薬局でも十分訪問業務に取り組めており、薬局からの提案や多職種からの提案も増えている。薬剤師の訪問業務に取り組む姿勢が多職種に伝わり、顔の見える関係づくりや団体間の連携が進んできている結果と考えられる。

クリーンルーム、クリーンベンチの設備のある薬局は少しずつではあるが増加傾向となっており、対応可能な手技については未設置の薬局の回答も多かったことから共有して使用している状況が考えられる。

現在、在宅訪問業務を行っている薬局と居宅療養管理指導の請求実績は順調に増えてきているが、未請求実績も同時に増えてきている。業務の質を上げ、周知を続け、更なる薬剤師の訪問業務の理解を得られる努力が必要である。

※倫理審査対象ではありません。利益相反はありません。